

令和元年(2019年)ノーベル化学賞受賞

吉野 彰さん



提供：旭化成株式会社

吉野 彰 (よしの あきら)

- 昭和23年 大阪府吹田市生まれ。
- 昭和35年 吹田市立千里第二小学校卒。
- 昭和38年 吹田市立第一中学校卒。
- 昭和47年 京都大学大学院工学研究科修士課程修了。旭化成工業(現旭化成)入社。
- 平成13年 旭化成(株)電池材料事業開発室室長。
- 平成16年 紫綬褒章(しじゅほうしょう)受章。
- 平成29年 旭化成名誉フェロー、名城大学大学院理工学研究科教授。
- 令和元年 文化勲章(ぶんかくんしょう)受章。

リチウムイオン電池を開発。小型で高性能の充電電池として携帯型の電子機器(スマートフォン等)を急速に普及させ、社会の発展に大きく貢献されました。

吹田市の子供たちへのメッセージ

私から皆さんへのメッセージは、まず自分で将来の目標をしっかりと決めてほしいです。後は、それに向かって一生懸命、一生懸命、努力してください。目標がしっかりしてしていると、途中でいろいろ苦しいときがあっても、必ず目標は実現しますので、ぜひ頑張っていたきたいと思います。

私は吹田市で生まれて、吹田市で育ちました。私の子供の頃の千里山というのは、竹藪があったりして、のどかな町でした。そこで、トンボ採りとか、セミ採りとか、そんなことで遊びまわっていたことを覚えております。

今から考えますと、例えば、トンボというのは、各池になわばりを持っているらしいのですが、他のトンボがくると必ず追い返すわけです。池を見ていると、ぐるぐる池の周りをまわって、他のトンボを、追い返します。これはひとつの自然の摂理みたいな、トンボならトンボなりのそういう習性を持っているんだな、というのを感じていました。

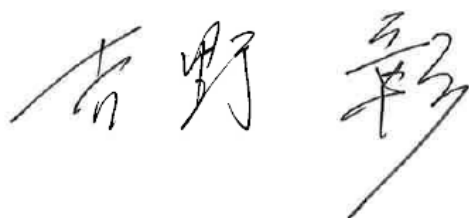
そんな風に、好奇心を持って、どのようなことでも「なんでやろう？」という気持ちを持つ、これが好奇心だと思います。子供でも大人でも変わらず、それを持ち続けるというのは、ひとつ大事なことです。

年齢に関係なく、いろいろなことに対して、「なんでこんな風に世の中が変わっていくんだろう」と考えることも好奇心です。こういう動きがあったら多分、5年後、10年後こうなるだろうと、なんとなく未来が見えてくると思います。それも好奇心だと思います。

大人も年齢には関係なく、自分が過去に経験したことをいろいろ思い出しながら、多くのことに好奇心を持っていると、おそらく、未来が見えてきます。

吹田の子供たちの今後に期待しています。みなさん目標と好奇心を持って頑張ってください。

令和元年10月19日

Handwritten signature in black ink, reading "西野 彰" (Shinjiro Nishiyama).